

# 地域おこし協力隊 長谷川 彩の 活動報告書

こんにちは。地域おこし協力隊の長谷川です。

大樹町にも、やっと雪が降り積もりました。朝の雪かきに、雪道運転、年末年始の帰省の際は無事に水落としても成功して、初めて尽くしの冬を毎日楽しんでいきます。どこかへ出かけるときは準備に時間がかかりますし、天候が悪ければ予定を変更しなければならぬことも。雪のない時期に比べて行動範囲は狭まりますが、最近パンを焼いたり、かごを編んだり、絵を描いたり、もちろん本を読んだりして、家のなかの生活も楽しんでいきます。

また、晴れの日におそろおそろ車を走らせると、雪化粧した日高山脈を遠くに望み、一面の雪原がどこまでも続いています。葉を落とした防風林が等間隔で並ぶシルエットと、真っ青な空に真っ白な雪のコントラストがとてもきれいで、「そういえばこんな景色に憧れていたんだよね」と改めて北海道に来ることができた幸せを思うのでした。そろそろこの素晴らしい景色を収めるために、カメラ技術を習得したいと思う今日この頃です。

## 第2回

## あの人のこんな本



喫茶ギャラリー陶  
オーナー 丹後 恵さん

町内のさまざまな方にインタビューをしておすすめの本をご紹介いただく「あの人のこんな本」。第2回は、喫茶ギャラリー陶のオーナー丹後恵さんに伺いました。北海道ゆかりの作家による日々の器や、それに合う美しい野の花で彩られる店内。図書館司書の経験もある丹後さんは大の読書家で、お店では毎月読書会も開催されています。

そんな丹後さんのおすすめは、ノエル・ストレットフィールドの『バレエシューズ』。1936年にイギリスで出版され、日本では2019年に福音館書店から完訳版が刊行されました。淡いピンクとグレーを基調に、ヒナギクのイラストがあしらわれた装丁が愛らしく、図書館ですぐに手に取ったという丹後さん。1930年代のイギリスを舞台に、学者に引き取られた身寄りのない三人の少女が姉妹となり、舞台芸術学校へ入学、夢を叶えようと研鑽する成長物語です。

本書は小学校高学年以降を対象とし

た児童書ですが、丹後さんは「自分と同年代の方たちにぜひ読んでほしい」といいます。「人が成長し、成功するとその過程で大事なことを忘れてしまいうようになる。お金を得たことで驕りがみえたり、人の気持ちが変わらなくなったり。そういうときに登場する大人がいかに大切な存在か」この物語は教えてくれるそうです。社会のなかで、広い意味で子どもたちを見守り、援助していく大人の役割：私にとつて丹後さんの解釈はとても新鮮で、納得できることばかりでした。

同じ本を読んでも、その人の立場や経験によつて解釈のしかたは変わります。子どもであれば、三姉妹に自分を重ね合わせて読むでしょうし、大人は彼女らを見守る年長者として読むでしょう。歳を重ねればそれだけ経験が増えて、一冊の本をより深く味わうことができるのだ！と丹後さんとの会話のなかで思うのでした。

「バレエシューズ」  
ノエル・ストレットフィールド 著 / 朽木祥 訳 / 金子恵 画 / 福音館書店



※図書館でも借りられます！